

中信美術会会報 NO.28

2015.2.28

発行/中信美術会・林宣孝 中信美術会事務所：〒399-8301 安曇野市穂高有明1689-6 矢野口靖方

第67回 中信美術展開催

6月28日(土)～7月6日(日)



於：松本市美術館



お正月中信展に変わります

第67回中信美術展覧会運営委員会委員長
中信美術会委員長 林 宣孝

6月28日土曜日晴れ、爽やかな初夏の日差しの下、美術館のエントランス前は来賓の方々を始め多くの皆さんの出席を得て、華やかに第67回中信美術展のオープニングが開催されました。この時期毎回盛大に開催されるこの光景、しかしこの青葉に包まれた初夏の中信展は今年が最後の年になります。昭和23年5月第1回中信美術展が開かれて以来、中信美術展は初夏の中信展として地域に定着し、愛され親しまれてまいりました。しかし次回68回展からは初夏の会期を県展に譲り、来年から冬季に開催されるお正月中信美術展として新しく衣替えをすることになります。中信美術会始まって以来の大きな変革です。

前回の会報にも中信展会期移譲について少し述べさせてもらいましたが、少し掘り下げてみます。これまでの県展は毎年会場探しに奔走し、ホームベースを持たない状況で、会場持ち回りによる多額の出費は会計を圧迫し、大きな問題として浮上していました。このため全県の視野から長野県の中心であり、施設の整った松本市美

術館で、県展一会場として開催出来ないかと言う全県的な要請がなされました。その要請を中信としてメリット・デメリットを含め慎重に検討し、デメリットも多数ある中、県展が松本市美術館に定着することは、長野県全体の美術振興に大きく寄与することになり、また県レベルの文化活動の拠点が身近にあることのメリットの大きさ等を考慮し、会期を譲ったものです。

お正月への中信展移行は、今までと環境が大きく変わります。冬の寒さ、日の短さに活動範囲は狭まることは否めません。それに天候にも左右されましょう。しかし中信美術会では会期移譲による諸事情を前向きに捉え、次回68回展を初めてのお正月中信展として、会員の皆様のご期待に沿えるよう、鋭意取組を進めております。

3年前の平成23年県展は松本市美術館で、お正月県展として開催されました。会期は1月3日から1月15日まで、全県体制で取り組んだこのお正月県展は予想を超えた多数の入場者を得て、大成功を収めています。この成功がお正月中信展へと繋がっています。

「松本のお正月は中信展から」そんなキャッチコピーを定着させられたらとても楽しいと思います。新春の晴着を着飾った娘さんたちが賑やかに作品を見て語らう会場、そんな光景も目に浮かびます。会期移譲による停滞は許されません。これを機に更なる飛躍を期して頑張っ

第67回中信美術展を終えて 学芸員の目

第1部 日本画 堀井 真美

展覧会の幕開けを飾る日本画部。今年はどんな作品と巡り会えるかと高鳴る心を一気に落ち着かせ、作品の世界へと引き込む瞬間が大変好きである。入口正面に展示された小林努《救いの光を見上げて》は効果絶大である。先へと足を運ぶと、視線や思考を作品の奥へと引き込むものが特に多く、見応えがあった。決して無理強いせず、優しく、奥へ奥へと鑑賞者を作者の見る世界へと誘う。それは、作者が描く対象をじっくりと注視し、吸収し、余分を削って、丁寧に画面へと現わしているからだろう。ますます深まりを見せる日本画部の次回が大変楽しみである。

第2部 洋画 大西 哲理

作家のそれぞれに意図があり、それを一言で評価するのは難しいが、中信地方にこれだけの作家がいることを美術に携わる一人として素直に喜びたい。

《さざめ》が圧倒的だった。一目見て秀作とわかる。絵具が弾けたように飛び散ったり、画面に染み付いたり、素晴らしい「さざめ」具合であった。

《眠れる森》は、かすれた黒い背景、朧に浮かぶ青と白の世界。ここは北欧かシベリアか。はたまたアラスカか。迷い込んだのは寒々とした森の奥の奥。果てしない闇の中を行けども未だ出口は見えぬ。いつ覚めるとも知れぬ深い眠りに落ちてしまった。中心に映るのは森の出口か。しかしそれは未だ遠く、夜明けはまだ訪れない。そんな空想に耽けてみた。

第3部 彫刻 岩垂 宏直

彫刻部門は出品数が増加しており、作品制作への意欲を年々強く感じる。

作品全体の印象としては、裸婦、人体、動物、仏像、抽象など題材に広がりがあり、鑑賞者を楽しませた。

今回、人体、裸婦彫刻は全般的に等身大の作品が多く、本展覧会の見どころのひとつであったと感じた。仏像や抽象などは独特の雰囲気をもつ作品が多く、印象的であった。

また、りゅう王丸《野面猫》はユニークな造形とキラリと光る黄金目との対比が目をつけた。清沢龍美《挑む》はスケート競技の一瞬を切り取り、筋肉の躍動が伝わってくるものであった。

第4部 工芸 武藤 美紀

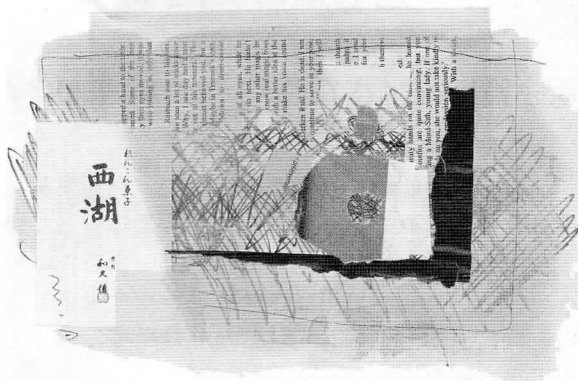
陶芸に多くの学生が出品しており、今後の活躍が楽しみな存在である。一般出品にもユニークな作品が多く、全体にレベルが高かった。

陶芸では、A氏賞を受賞した長尾優太《夜籠り》が目をつけた。方形をベースにたっぷりとかけられた釉薬が胴の上部で窯変し、ぬばたまの夜に妖しくも美しい景色をもたらしている。形も美しい。

染織は毎年、光や水をイメージした作品が見られる。抽象的な画面を構成するものが多く、今年も身近に飾って楽しみたいと思わせる作品がずらりと並んだ。

松本恵美子の《繋がる生命》は独特の仕上がり。

アシンメトリーに配置した四角い輪は、グレー、朱、緑の三色。これが渋い色彩ながら生成り色の地によく映えていたのが印象的だった。



平成26年度 新会員おめでとうございます

1部 (日本画)	窪田 守	胡桃さつき	清水美智子		
2部 (洋画)	柏原 久子	木内 行雄	久保田 俊	熊谷登志郎	高崎ほづみ
	田野 律子	幅 幹枝	福永 眞琴	森田 道男	
3部 (彫刻)	山崎 亨				
4部 (工芸)	長幅 愛	平野まり子			

今後の課題

1部 窪田 守

何年間か、忙しいということ言い訳に、描くことを中断していました。自分は本当に絵を描きたいと思っているのか、自分でもよくわかりません。描かなくても渴望感はありませんでした。

しかし、この度中信美術会員にご推挙いただき、組織の一員となる戸まどいはありますが、「描き続ける」ことを今後の自分の課題としていきたい。

楽しく続けたい

1部 ^{くるみ}胡桃さつき

日本画を習い始めて7年が過ぎ、やっと胡粉が溶けるようになった頃に会員推挙ありがとうございます。毎日安曇野で犬と散歩していると、絵の中に入り込んだみたいでいつかこの感じが表現できたらいいと思います。仕事と家事の合間の数時間に、キッチンで落語を聞きながら絵を描くのが楽しくて、一生続けたいと思います。

新会員になって

1部 清水美智子

会員に推挙していただき、ありがとうございます。会員になれましたことを一つの節目として今一度初心にもどり、多くの皆様の作品に刺激と感動をいただきながら、精進していきたいと思っております。よろしく願いいたします。

新会員に推挙されて

2部 田野律子

会員推挙ありがとうございます。油絵を習い始めて三年が過ぎた時、交通事故に遭い教室を辞めてしまいましたが、半年程して怪我也も快方に向かい、自己流で描いていました。それを、中信美術展に出品させていただき入選したのを機に、体も気持も元気になり続けてくることが出来ました。

会員になれたことを励みに、初心にかえりゆっくり前進していきたいと思っておりますので、皆さまよろしくご指導お願いいたします。

好きを続ける

2部 柏原久子

絵が好きです。描くことも見ることも。

時に、家に連れて帰りたと思うほど、心揺さぶられる絵に出会うことがあります。

翻って自身を鑑みれば、未熟でわからないことばかりですが、いつかそんな琴線に触れる絵が一枚でも描けますように、そう願っています。よろしくお願い致します。

よろしく願いします。

2部 久保田俊

この度は、会員に推挙されまして中信美術展を微力ながら盛り上げていけたらいいなあと思います。

私も、もう四十になりまして、精力というか体力も若い頃に比べたら落ちてまいりまして、いつまで続くか分かりませんが、以後よろしくお頼み申し上げます。

新会員になって

2部 熊谷登志郎

会員推挙ありがとうございます。

油絵は学生時代から描いてきましたが中信展出品も苦節何十年ようやくと成れました。

むずかしいですが魂のこもった絵を追求していきたいと思っております。

どうぞ宜しくお願いいたします。

新会員になって

2部 高崎ほづみ

中信美術会会員にご推挙下さいまして、ありがとうございます。

ご指導下さった先生はじめ、お支え頂いた皆様

新会員のことば

に感謝申し上げます。

この節目に気持ちを新たに、あこがれのテーマ「心に響く美しさ」を求めて更に励んでまいりたいと存じます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新会員

2部 幅 幹枝

中信美術会会員に推挙していただきありがとうございます。デッサン教室に参加したのが私の絵の始まりです。アクリル画教室では抽象画を描き始め、最初の年は50号という大きなキャンバスに絵が描けた事がただただ嬉しかった。教えて頂いている先生、教室の皆さん、いろんな方々の熱い気持ちに感謝しています。これからも初心を忘れず少しずつ進んで行きたいと思っております。よろしくお祈り申し上げます。

2部 福永眞琴

新会員に推挙されて、中信美術会の皆様の仲間に入れさせて戴き誠に感激にたえません。六十歳代から始め七十歳代になりやっと人並になったと思ひ中信展に出品させて戴きました。その間神谷、両角先生の御指導に感謝しております。

日本の内で最も美しい信州の山河の風景を描いて行ける幸せを思い、これからも精進して行きたいと思っております。御指導の程よろしくお祈りします。有難とう御座居ました。

新会員になって

2部 森田道男

会員に推挙していただき、身のひきしまる思いです。又、懇親会に参加させていただき大変ありがとうございました。

初めてのことであり、どのようにしたらわからず、困っていましたが、会員の皆さまにお世話になり助かりました。大変うれしく、感動致しました。

これからも、初心を忘れず描き続けていきますので今後共よろしくお祈り申し上げます。

新人

2部 木内行雄

皆様から推挙されたことは大変よろこばしいことです。これからも精進しますのでよろしくご指導をお願いします。

新たな思い

3部 山崎 亨

学生時代は具象彫刻の勉強をしておりましたが、仕事を持って制作は止絶えておりました。上田彫塑研究会や彫塑仲間の会に誘って頂き、またその続きをする事ができる様になりました。この事に感謝しつつ、新たな思いで勉強を続けて行きたいと思っております。宜しくお願い致します。

次の目標へ

4部 長幅 愛

会員に推挙して頂き、大変嬉しく思います。初めて熱中できた陶芸で、諸先生、先輩方と同じ御名誉を頂戴できたことに、とても感激しております。これを励みにますます創作に力を入れていきたいと思っております。二年前、新人賞を頂いてからずっと、中信美術会員となるのが私の目標でした。また一つ目標を達成できたので、次の目標に向かって頑張りたいです。

新会員になって

4部 平野まり子

会員推挙大変ありがとうございます。

安曇野に来て35年くらいになるでしょうか。始めは、全てのものに馴染むことが多くとまどうこともありましたが、今は豊かな自然と温い人の愛に包まれて制作することができ本当に幸せを感じています。

今だ自分らしさも見えず未熟な私ではありますがポチポチ歩きでもゆっくり進んでいけたらと思っています。今後ともご指導をよろしくお祈りします。

新会員のことは



第67回中信美術展企画

ギャラリートーク・ナイトミュージアム
ワークショップ

ギャラリートークとナイトミュージアム

岡本諒一

今展もオープン初日のギャラリートークと翌週末のナイトミュージアム・ギャラリートークを実施し、昨年より多くの出品者が参加しました。

両日ともそれぞれの作品を前に、各部審査員の講評や各出品者の制作にあたってのこだわり・コンセプトをみんなで聞いたり質疑応答したりと、時間いっぱいまで熱い雰囲気の中で語りあうことができました。

個人の作品のほり下げた研究になり、ヒントをもらい、テーマの重要さを学習し、作家仲間として次回展にむけて力が湧いてくる交流会となりました。

今年でギャラリートークも3回となり、出品者もご苦労された担当の皆様も楽しくて大切な催しとなって来たことが実感できたと思われます。

ワークショップ ～アートに挑戦「楽しいアクリル画」～

松本市美術館学芸員 大西哲理

毎年、中信美術会と美術館の共催で行っている「アートに挑戦 楽しいアクリル画」。今年も中信美術展の会期にあわせて6月30日に行われました。

今回30名の定員はキャンセル待ちも含め、申込初日で満員になるほどの大人気。もしかして参加できた皆さんはラッキー？それとも熱心な講座のファン？

講座は榊田千秋先生をはじめ、中信美術会の皆さんによる実技指導。バックにはポロックがアトリエで聞いている音楽。誰かに褒めてもらうためでもなく、ただ、感じた気分をめいめい好き勝手に描いてみました。絵具が飛び散ったって、画面からはみ出したっていい。とにかく楽しく描こう！最後に額に入れて並べて飾れば、それはもう、世界の誰にも真似のできない立派なアート作品。

「あれ？描くことってこんなに楽しいんだ！」初心者も経験者も終了後には絵を描くことの楽しさを実感してくださったことでしょう。

夏季美術講習会

夏季美術講習会五年を振り返り

講師 中山邦彦

講師として忸怩たる思いで五年が過ぎた。

今年は遠近感、距離感の表現方法として、単一画面による明暗を取り上げ、白・黒・灰及びそれらの面の組み合わせが目と与える刺激度による力学的視点に立って、画面の組み立てを考えるようにした。しかし、デッサンの経験や力量の差が大きい受講生に、どれだけの意味があったかは疑問が残る。

美大を目指す高校生から初心者の七〇歳代の高齢者まで幅広い皆さんに、本人の願いや楽しみやレベルに応じた生涯学習的な支援の難しさを痛感した五年間でもあったし、貴重な経験をさせて頂いたことに感謝したい。



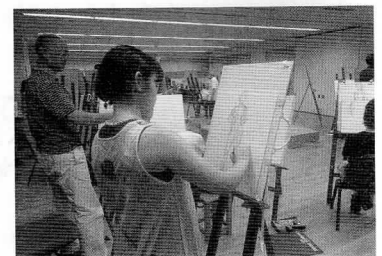
夏期美術講習会に参加して

桑村恭子

私にとって八年ぶり二度目の参加だった。イメージの世界で制作を続けてきた私は「よく視て描く」習慣から遠のいている事にある危惧を感じていた。案の上、若く美しいモデルを眺めた印象と、それを木炭紙に木炭でフォルムを描く事には何とギャップがあった事か。最終日までかかって両先生の指摘に助けられて何とか描ききる事ができた。そこに私が見たものは、表面をなぞるような甘く弱いフォルムだった。人体の構造（骨格、筋肉）とその重心を把握しつつ表面の肌合いを描ききる事の難しさと面白さ。その上で自分の意図がもっと発揮できれば…。

ともあれ暑さも忘れ、無心に対象に向きあう時の充実感を徐々に味わった。

最後に受講者の作品の講評があったが、すぐれた沢山のデッサンがあった。たとえ五分でもそれらの作品を近くで鑑賞したかった。



会員のおもひ

魅せられて

1部 柳沢謙至

それは二十数年前のことです。東山魁夷館を訪れ数々の作品に触れ深い感銘を受けたことを今でも思い出します。写生、下絵、習作から本画へと日本画の制作過程をも知ることが出来、数ある名作のなかでも「曙」に魅せられ、私にもこんな絵が描けるかなあ？などと大逸れたことを考えたものです。その後日本画教室に通うようになり、基礎から習い始め年を重ねてきましたがこの奥深いそして終りのない目標に向かって敢えて挑んでいる日々です。後期高齢者になった今は描きたい絵を楽しみ乍ら描いていこうと自分自身に言い聞かせて一人で納得しています。今後は若い人達の台頭を楽しみに時を過ごして行きたいものです。

恩師の退任の言葉

2部 今井順也

今年の三月、大学時代にお世話になった教授が退任となり、それを祝う式に参加しました。恩師は、九州出身の鑄造金属専門の工芸家です。学生時代は、恩師の作品のすばらしさに気づくことができませんでした。しかし、抽象的な表現を絵画に取り入れるようになり、そのすばらしさを感じるようになりました。今回、久しぶりに恩師と再会し、六十五歳の今も制作を楽しんでいること、意識は世界を向いていることに感銘を受けました。私も、恩師のように、いつまでも高い目標を持って制作をしていきたいと思いました。

衝撃を受けた彫刻展の絵画 3部 吉江秀泰

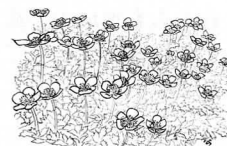
2006年6月初～7月末まで、神奈川県立近代美術館・葉山館で「アルベルト・ジャコメッティ展―矢内原伊作とともに―」が開催された。窓の外に海の見える展示室には、矢内原を描いた肖像画というべきか…油絵が掛けられていた。暗い背景からまっすぐ正面を見つめる人物像は細い線を何度も重ねて描かれ、表情は瞑想的ですらある。背景や衣服は簡潔な線で描かれ、人物においては線を描き面を重ね、幾重にも重なり塗られ、頭の高さや目の位置は何度も書き直されている。人物の頭部にジャコメッティの関心がそそがれている。無駄なところを削ぎ、追求すべき部分はズーッと目標とするモノにフォーカスする。そのあらわな姿が見る人を取りこにさせる。また、ジャコメッティの表現にはコミュニケーションを最重視しているともいえる。モデルになった矢内原と面会し、語らい時を過ごすその間、時間軸を追うように顔の表情も変化している。描いたり消したり、そこにまさにコミュニケーションが生まれている。ジャコメッティは「見るとおり」に描き創作している、と語る。真実をついた言葉だと思う。私にとって、とても衝撃を受けた展覧会であった。

日々

4部 丸山邦江

ざわざわと風の音、木の葉、川の流れ、光と影、その中に身も心もゆだねてみる。そんなこち良いものを表現できたらと試行錯誤しているところに今回の受賞のお知らせを頂き、心がひびきさにざわつきました。中信美術会に携わる多くの方々に感謝しております。穏やかに、心の中の整理をしながら制作を続けていきたいと、今回改めて思いました。

大いに盛り上がった会員交流会



太田画伯を偲んで



太田画伯の突然の訃報にしばらく信じられない思いでした。急いでお宅に駆け付けると二階のアトリエに安置されていた。安らかなお顔であった。一陣の風と共に逝かれてしまった。淋しい限りである。

思えば太田先生は松本の城東に生まれ3歳頃まで住んでおられたのですが昭和43年に岡田の女鳥羽中学校の校庭の北側に面した土地にアトリエを新築された。私の家から10分程の近距離であったから何かとお付き合いすることができた。

太田先生は31才で春陽展に初入選され、35才で会友になってから益々制作活動に専念するようになったと思われまふ。新築されたアトリエは広々として、窓からは鉢伏山の眺望もよく桑畑を渡る風は朝の光と共に室にみちています。太田先生は、文学青年でもありましたから、発する声は大きいけれども、心根はナイーブで繊細な心の持主であったろうと思います。それは一貫した作風を観れば納得できます。窓辺に横たわる人物や鳩に吹き渡る風の造形の中に体温や息づか

中村石浄



夕影の刻

いを感じさせないではおかないものがあります。太田先生の画は窓辺をテーマにしているものを多く観せてもらってききましたが、基本的には具象です。でも単なる写生ではなく、画家に溶け込んだ自然であります。58才で会員になられてからも益々その境地は深まってきたように思われます。

画を愛し酒を愛し思索する中で清楚な発想の足場をきめ白を基調とした清らかさを濁らすことなく完成にまで持っていこうとした制作態度には教えられるものがあります。

中信美術会の重鎮がまたひとり逝ってしまった。ご冥福を祈るばかりである。

太田義信 26.11.21逝去 81歳

穂苅甲子男さんを偲んで

中信美術会委員長 林 宣孝

中信美術会賛助会員であり、また第56回中信展よりK氏賞をご提供いただきました穂苅甲子男さんが旧臘24日にご逝去されました。松本を代表する経済人であった穂苅さんは、芸術文化にも造詣が深く、その振興に多大な貢献をされました。松本市美術館建設の折には市民運動の代表としてご尽力いただき、中信美術会の活動にも深いご理解とご支援を賜りました。ご遺志を継いでこれからも地域の芸術文化振興の一翼を担う美術団体として役割を果たしてまいりたいと決意を新たにしております。ここに心より哀悼の意を捧げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

〈会報編集委員〉

浅川 正章 伊藤由紀子 中沢 俊晴
深井 公 細田 啓子 三原 好清

〈受賞・新会員作品写真編集〉

清沢 龍美

編集後記

今年、会報を配る総会が平成26年12月から平成27年の3月に伸びました2015年度は、中信展がお正月開催となる変革の年であることからどのように会報を組めばよいか考えましたが、まずは、今年度のことを今まで通りに会報にのせていくことが大切と考えました。来年度のことは、いろいろ時期や活動が変わるもの、変わらないものなどまた来年の計画がはっきり決まった段階で報告していけばよいと思います。

今年、初めて総会が12月から27年の3月に代わることから、原稿をいつごろ集めていつ編集したらよいか迷いましたが、会報委員会のたびごとに検討を重ねて、順調に会報を作ることができました。

原稿をお寄せいただいた委員、会員の皆様に心からお礼を申し上げます。

会報委員の方には、たびたび当初の計画より日程など変更しましたが、お忙しい中ご都合をつけられましたこと会報編集にお集まりいただき、楽しく作業ができたことを感謝いたします。

中信美術会ホームページ

中信美術会の歴史、先輩諸氏の含蓄ある話、会員情報、中信美術展の詳細など情報を満載しています

address <http://chubi.ne.jp> あるいは **中信美術会**

会員のみなさんの個展、グループ展の情報など事務局までお知らせください

中信美術会事務局 〒399-8301 安曇野市穂高有明1689-6 矢野口靖方 ☎0263-83-8770